



秋が進んでいます。串木野高校校長です。よろしくお願いいたします。

今回のテーマは、「**たまには思考クイズもいかがですか？**」です。

今週水曜日は、学年 PTA でした。お忙しい中、来校いただきありがとうございました。

秋は、学習の秋でもあります。保護者の皆様も、思考クイズはいかがでしょう？

ここにリンゴが 10 個あります。これを 3 人で公平に分けたい、あなたならどう分けますか？

このクイズは、水平思考クイズとしてよく取り上げられる問題です。

よくある模範解答では不満が残るかもしれません。

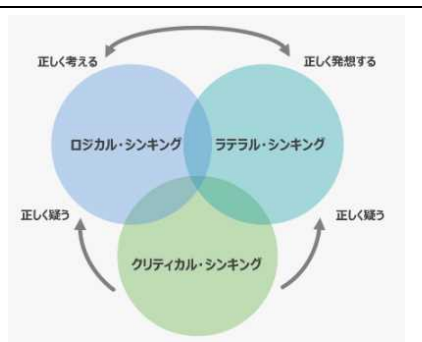
「3 個ずつ分けて、残った 1 個を 3 等分する」や、「重さを量って 3 等分する」が、いわゆる **ロジカル・シンキング** 的な答えです。3 等分が均等に出来るか？秤が無い場合は？など理論上ですね。

「10 個をミキサーにかけて、ジュースにして 3 等分する」という答えが、**ラテラル・シンキング** 的な答えでしょう。しかし、一見「なるほど」と思うのですが、リンゴを食べたいのにジュース？というのもどうか？ですよね。

ここで、**ロジカル・シンキング** と **ラテラル・シンキング** について説明をすると、

- ・**ロジカル・シンキング** とは、筋道を立てて論理的に結論を出す考え方(ロジカル:論理的)
- ・**ラテラル・シンキング** とは、既成概念や論理の制約となる前提にとらわれることなく、物事を多面的に考察し、水平方向に発想を広げる思考法(ラテラル:水平の)

という違いがあります。他にも、クリティカル・シンキング(批判的思考)という思考法もあります。



■不公平がどうでもよくなる解決法とは

ラテラル・シンキング の理想的な答えは、

「まず 10 個のリンゴを 3 個ずつに分けて、残った 1 個を A さんが 3 等分して、B さんと C さんがじゃんけんをする。勝ったほうから 3 等分のうち 1 つをとって、残りを A さんがとる」とか、

「3 個ずつ分けて、残った 1 個を 100 個ぐらいに細かく切る。そのあと 3 人でじゃんけんをして、勝った人から 1 破片ずつ順番に拾っていく」という答えでしょうね。

「残った 1 個を 3 等分」するのはロジカル・シンキングの答えと同じなのですが、切った人以外でじゃんけんをして、勝った人から 3 等分のなかで好きなものを選ぶようにすれば不満も出ません。切った人は 1 番小さいリンゴになるのですが、それに関しては「うまく 3 等分できなかった人の責任」だから文句も言えないよね、という考え方です。

また、100 個に切ると、切る人の責任も小さくなりますし、だんだん拾っていくうちに、大小の差はどうでもよくなる？ので、不平は気にならなくなるのではないのでしょうか。

結論として、「考え方のパターンは多いほうがいい」ということです。

社会問題などの解決策を考える際は「みんなが満足する答え」がないことが多いので、最大多数の最大幸福(いわゆる多数決投票)を求めることは多いですね。

しかし、この問題のように「公平性」という条件があれば、誰もが損をしないような考え方を求めるのは大切なことだと思います。多数決で決めることが出来ないような場合、さまざまな考え方のパターンを知っておいたほうが良いのではないのでしょうか。

今回の串高通信は、「考え方」に注目してみました。

私も、いろんな学校運営上の悩みをラテラル・シンキング的に、ぐるぐる考えております。(@ @)

来週 10/26 (土) は文化祭です。ぜひお越しくださいませ。

串木野高校 頑張っています。

校長 堂園